



「ため池」の効用と安全性

この度の西日本豪雨により、本市においても多大の被害がありました。

向原町戸島地区において、狼谷ため池の決壊が予測されたため、影響区域4戸の皆様へ避難を指示しました。同時に、狼谷ため池の安全を確保するため、安芸高田市消防本部及び消防団により、土のう設置や昼夜12日間にわたるため池の水抜き等を行いました。また、高宮町来女木地区においては、はんぞうため池の決壊が予測されたため、影響区域3戸の皆様へ避難を指示しました。

農業用水を確保するために造られたため池が、耕作地の減少などで維持管理が不十分なことにより荒廃し、防災面での危険性が全国的にクローズアップされているのが現状であります。東日本大震災や、この度の西日本豪雨では、ため池が決壊して、死者・行方不明者を出す大惨事も起きています。ため池は全国に20万か所存在し、特に西日本に多いのが特徴であります。近年の台風などによる水害の激甚化で、管理状況がつかめていない、中小ため池の危険性が増大していると思われま

ため池は、農業用水を確保するため、

水をたくわえ、取水ができるよう人工的に造成された池であります。水田農業が中心の我が国では、水源としてのため池が数多く築造されてきました。ため池は、農業用水の確保だけでなく、生物の生息・生育の場所でもあり、地域の憩いの場にもなっている多面的な機能を有しております。また、洪水時には雨水を一時的にためる洪水調節機能もあります。反面、豪雨などでため池が決壊すると、ため池に貯留された土砂や流木が下流域に大きな被害を与えることになりかねません。

広島県には19,609か所のため池があり、全国で最も多い兵庫県に次いで、2番目の保有数です。安芸高田市では877か所のため池が存在し、県内で9番目です。先般、広島県知事が災害被害の視察に来られた際に、向原町戸島地区のため池の実態を報告したところ、ため池の必要性、ため池の安全性について注目され、広島県においても早急に対策を講じるとの発言をされました。

本市では、この度の西日本豪雨災害を、教訓として「ため池」の効用と安全性を、

- ① 農業用水としての活用
 - ② 生物の生息・生育の場所として保存
 - ③ 洪水調節機能として活用
 - ④ 市民の憩いの場として活用
- 4項目の観点から、検討していきたいと思っております。早急に学識経験者やため池所有者、地域住民の代表で構成する「安芸高田市ため池保全協議会」を設立し幅広く意見を取りまとめたいと思っております。



応急的に補強したため池